



歴研ニュース



News-Letter NO.12
 発行日 2004年10月6日
 発行 飯田市歴史研究所
 〒395-0002
 長野県飯田市上郷飯沼3145
 電話 0265-53-4670
 ファクシ 0265-21-1173
 E-mail iuhr@city.iida.nagano.jp

8月21日
22日

第2回地域史研究集会を開催しました

8月21、22日に追手町小学校講堂で開かれた地域史研究集会には、夏の暑い中にもかかわらず、2日間でのべ200人以上の方々にご参加いただき、大盛況となりました。参加者の皆さん、講師・報告者の皆さん、ありがとうございました。

21日

シンポジウム「下伊那の国学」

国立歴史民俗博物館長の宮地正人さんによる記念講演『伊那の国学』、前高森町歴史民俗資料館長の林登美人さんによる研究報告『史料調査を通して垣間見た伊那谷の平田国学』が行われ、東京大学史料編纂所の小野将さんがコメントしました。宮地さんは中津川との強い結びつきによって伊那の国学者が主体的に政治運動に関わっていく様を具体的に述べ、林さんは片桐家文書の整理を通じて解明した山吹国学の世界を説明し、今後の重要な研究課題を提起しました。

当日のアンケートでは「当時の人の手紙などを駆使して、大変面白かった」「林先生のお話は身近で具体的によく理解できた」などのご意見がありました。



会場内の催し

会場の一角に設けた展示コーナーでは、歴史写真展として、1930年代と1960年代の飯田の町並を写した写真を展示しました。また、シンポジウムや研究報告会に関連して、国学四大人画像の掛軸やPEACE天龍の活動記録ポスターの展示もありました。

地域のアマチュア音楽家の方たちによるミニコンサートや、現代アート作家北澤一伯さんによるアートパフォーマンスも行われ、美しく響く音色、入った瞬間に目をひく作品が、会場に彩りを添えてくれました。書籍販売コーナーには、『飯田市歴史研究所年報2号』ほか地域史関連書籍が並びました。



22日

研究発表会

飯田・下伊那の歴史に関わる8本の研究報告が行われました。近世の酒造株や山論、近代の学校設置、菱田春草の仏教画、遺跡発掘、行財政史など多彩なテーマの報告がありました。PEACE天龍(天龍中学校3年生)の皆さんは、平岡ダム強制連行に関する学習成果を発表しました。

「それぞれ熱心な発表だった」と概ね好評でしたが、「1人当たりの時間が短い」というご批判もいただきました。今後の課題にしたいと思います。

なお研究発表の合間には2004年度飯田歴研賞の受賞式が行われました。



飯田歴研賞 2004

飯田市歴史研究所では、飯田下伊那の地域史研究において優れた研究や活動を表彰する飯田歴研賞を創設いたしました。

■今年度の受賞者

◇著書部門 都筑方治さん『馬宿』(南信州新聞社,2004)

◇論文部門最優秀賞

田原 昇さん「近世伊那谷における樽木支配の様相—千村平右衛門預所を事例として—」(『徳川林政史研究所研究紀要』38,2004)

山口通之さん「長野県の南信三地域(諏訪、上・下伊那)の戦後の工場立地とその展開からみた空間構造—三地域の製造業の立地関連と海外進出を中心に—(1)(2)」(『信濃』第55巻第11号・12号)

10月 16(土) 17(日)



第5回 都市空間の原景と現在

講師 伊藤 裕久 さん 東京理科大学教授

日本における伝統都市の景観や空間構造は、どのように形成されてきたのか、また、その歴史的特質が、どのような形で現在に継承されているのかを、幾つかの調査研究の成果をもとに建築史の立場から考えてみたいと思います。具体的には、近世村落における集落化と市町、寺内町にみる村から町への展開、宿場町と幕末期における大型町家の成立、東京下町の市街化と住居、伝統都市の祭礼空間、東アジアにおける中庭の風景などを取り上げます。

11月 20(土) 21(日)



第6回 近世都市大坂と民衆の生活世界

講師 塚田 孝 さん 大阪市立大学教授

江戸時代の大坂と言えば「天下の台所」、大豪商のイメージがすぐ浮かぶと思います。しかし、今回は大坂の都市社会に暮らし普通に生きた人々(民衆)の生活をかいま見ることにします。材料は「孝子褒賞」関係の史料です。現代都市とはまったく異なる都市のしくみ、そこで歴史をささえて懸命に生きる名もなき人々、そこから「地域史」として都市史を研究することの意味を考えてみたいと思います。

12月 18(土) 19(日)



第7回 都市化と農村 - 東京の近郊 -

講師 奥 須磨子 さん 和光大学助教授

1月 22(土) 23(日)



第8回 古代の科野・御野と王権

- 古代の地域史研究の方法と史料学研究の役割 -

講師 田島 公 さん 東京大学史料編纂所助教授

★諸事情により、日程等が変更となる場合があります。「歴研ニュース」や市広報でお知らせしますので、ご注意ください。

★いずれの講座も90分間の講義を4回、2日間にわたって行います。

■時 間

1日目(土曜日) 13:00~16:30

2日目(日曜日) 10:00~14:30

■会 場

飯田市歴史研究所(飯田市上郷庁舎)

3F会議室

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)

■お申込方法

電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申し込みください。

※ファクシミリ、Eメールでのお申し込みは住所・氏名・電話番号を明記してください。

月例研究会

歴史研究所では月例研究会として、月に1度スタッフが研究内容を報告し、自由な意見交換を行っています。興味のある方はぜひご参加ください。

事前の申込は必要ありません。

★10月の月例研究会

日時 10月30日(土) 14:00~16:00

場所 歴史研究所 研修室

報告 満州開拓義勇軍教学奉仕隊の記録を読む
-1943年夏班、宮下功さんの

「満州紀行」を中心に-

齊藤俊江(研究補助員)

教育会が送出した義勇軍の生活実態と指導を当時の記録によって探ってみたいと思います。

★11月の月例研究会

日時 11月26日(金) 18:00~20:00

場所 歴史研究所 研修室

報告 伊那自由大学について
清水迪夫(調査研究員)

「我々自身の力を以て、我々自身の中に建設した、最も堅固なる一教育機関」をめざして開講された伊那自由大学(初めは信南自由大学)とは何かを先行論文から考えます。

歴史的建造物コーディネーター募集中

歴史研究所では、飯田市内全域の歴史的建造物の調査を開始しました。市内それぞれの地区ごと、自治会や公民館等を中心に、「残しておきたい建造物」をご紹介いただく調査(市民調査)が始まっています。

この調査に続き、ご紹介いただいた建造物それぞれの現地調査(基礎調査)や、さらに詳細な調査(本格調査)を行っていく計画です。

これらの調査につきましても、市民の皆さんのご協力を得ながら進めて参りたいと思います。この活動にご協力いただける方を「歴史的建造物コーディネーター」として募集中です。関心のある方、ぜひ一緒に調査活動に取り組んでみませんか。

●応募資格

歴史的建造物に関心のある20歳以上の市民の方ならどなたでも

●活動内容

基本的にはお住まいの地区を中心とした無償ボランティア活動です。期間は当面2年間を予定しています。

●応募方法

電話でお申し込みください。

●応募締切

10月22日(金)



申
込
問
合
せ

飯田市歴史研究所



電話 0265(53)4670

FAX 0265(21)1173

Eメール iibr@city.iida.nagano.jp

調査活動報告

下清内路区有文書調査

9月14日(火)から17日(金)まで、東京大学日本史学研究室の皆さん35名が「日本史・史料調査実習」講座の一環として下清内路区有文書の調査を行いました。16日には歴史研究所から研究員・調査研究員3名が参加しました。

文書が保存されている清内路村下区公民館は、清内路諏訪神社境内にあり、もともと芝居舞台として使われていた建物です。同所への東大日本史学研究室による調査は昨年に続き2回目となります。今回は現状記録、目録作成を行いました。

参加者の皆さんは、17日午後に歴史研究所の見学を訪れ、研究員の説明に耳を傾けながら、閲覧室の史料ファイルなどを各自手にとっていました。1人でも多くの方が、飯田・下伊那の豊富な史料に興味をおぼえてくださると嬉しいです……。



歴研ゼミナールだより

近世史ゼミ	8月3日	史料研究「欠落した被官」	近現代史ゼミ	8月12日	文献講読「青年団における戦後の出発」(北河賢三)
	8月31日	史料研究「国学者の手紙」		8月26日	文献講読『戦後経験を生きる』(大門正克,吉川弘文館,2003年)
	9月14日	史料研究「借用申金子之事」		9月9日	第2期聞き取り調査計画
	9月21日	史料研究「紙問屋騒動」		9月19日	フィールドワーク

★ゼミ生は随時募集しています。興味のある方は歴史研究所へお気軽にお問合せください。

近世史ゼミ：隔週火曜日 午後7時～

現代史ゼミ：隔週水曜日 午後7時～

近現代史ゼミ：隔週木曜日 午後7時～

ジュニアゼミ：隔週土曜日 午前10時～

近現代史ゼミフィールドワーク

景観保存と国学拠点地に学ぶ

田中 雅孝 (調査研究員)



歴史的景観を残しながらも現在の生活を感じさせる足助町の町並み

9月19日に県外隣接地域のフィールドワークを10名の参加で実施しました。稲武町では古橋懐古館を見学しました。古橋家は幕末国学運動の拠点となりました。維新时期著名人の墨蹟を中心に展示がなされています。国学の広い情報交流をうかがわせるものでした。

足助町は中馬街道の拠点として栄えました。ボランティアガイドの方のお話から当地の景観保存運動は期せずして地域住民の生活と調和する方策を重視してなされていることが特徴であると思いました。

明智町は戦前の製糸都市としての街並みを伝えており、「大正村」として観光資源にしていますが、街並みに生活した人々の独自の歴史や文化を伝えるという視点が乏しいという印象を受けました。景観保存と連携して住民の「記憶保存」という視点からの地域史研究が行われることが重要ではないかと考えました。

中津川市では中山道歴史資料館を見学しました。下伊那の平田国学門人らの手紙も展示されています。宮地正人さんは中津川宿が「伊那谷南部と飯田、さらに北三河を含む地域の政治的・経済的・文化的な磁場の役割を果たしていた。」(「平田国学と政治情報」)と指摘していますが、下伊那地域史研究にとって県境によって分断された地域観を乗り越えて、周辺地域との交流を探る視点が重要であることが実感できました。

研究所年報② 発刊！

飯田市歴史研究所年報②を発刊しました。第1回飯田市地域史研究集会シンポジウム「語りつぐ飯田・下伊那の歴史」の講演記録や、飯田下伊那を題材とした論文や調査報告など、多数収録しています。

※飯田市歴史研究所、市役所行政資料コーナーのほか飯田市内書店でも販売。
※通信販売を希望される場合は、歴史研究所までお問い合わせください。



販売価格 1,300円

主な内容

- シンポジウム講演記録
- 論文・研究ノート
 - ・森本家の手作経営と農業技術
 - ・両大戦間期下伊那地方の人口構成
 - ・飯田藩における酒造人と酒造仲間
 - ・明治初期筑摩県における「小校」設置と近代学校への移行
 - 飯田市域の事例—
- オーラルヒストリー
 - ・農婦一筋にいきて
 - 三石りゑさんに聞く—

ほか

歴研日誌 8月～9月

- 8月3日(火) 近世史ゼミ
- 8月9日(月) 研究所事業に関して法政大学人間環境学部石神ゼミに説明
- 8月11日(水) 下久堅青島家農業関係資料調査
- 8月12日(木) 近現代史ゼミ
- 8月13日(金) 下久堅齊藤喜茂さん聞き取り(4Hクラブについて)
- 8月17日(火)
 - ・阿智村山本慈昭記念館見学
 - ・山本市村大和氏より図書の寄贈を受ける
- 8月18日(水) いいだFM「明治の学校の夏休み」(多和田真理子)
- 8月20日(金) 『飯田市歴史研究所年報②』発刊
- 8月21日(土) 研究員会議
- 8月21日(土)・22日(日)
 - ・第2回飯田市地域史研究集会を開催
- 8月22日(日)～24日(火)
 - ・東京外国語大学吉田ゆり子教授主催の千代中山和茂家文書調査に参加
- 8月24日(火) 子ども向け出版説明会
- 8月26日(木)
 - ・近現代史ゼミ
 - ・山吹宮下道彦氏より「満州紀行」借用調査
- 8月31日(火) 近世史ゼミ
- 9月1日(水) 歴史的建造物調査コーディネーター募集
- 9月7日(火) 下久堅宮内宏幸氏より旧滝沢医院の資料提供を受ける
- 9月9日(木) 近現代史ゼミ
- 9月14日(火)～17日(金)
 - ・東京大学日本史学研究室の下清内路区有文書の調査に参加
- 9月14日(火) 近世史ゼミ
- 9月15日(水) いいだFM「伊那自由大学について」(清水迪夫)
- 9月18日(土)
 - ・月例研究会「工場誘致と農山村の変貌—興亜電工と阿南町—」(本島和人)
 - ・史料研究ノート(新海愛)
- 9月19日(日) 近現代史ゼミフィールドワーク
- 9月21日(火) 近世史ゼミ
- 9月22日(水) 市村合併教育部会の開催

10～11月のスケジュール

10月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	近5	英6	7	8	Jr9
10	11	12	13	現14	15	あ16
あ17	18	近19	英20	21	22	Jr23
31/24	25	26	27	現28	29	月30

11月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	近2	3	4	5	6
7	8	9	10	現11	12	Jr13
14	15	16	17	18	19	あ20
あ21	22	23	英24	現25	月26	Jr27
28	29	近30				

- 開所日 □ 休所日 あ…アカデミア 近…近世史ゼミ
月…月例研究会 現…近現代史ゼミ
Jr…ジュニアゼミ 英…英語でよむ現代史ゼミ
- 開所時間 午前9時～午後5時
 休所日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

